

2007年度入試の出題傾向

学校法人 河合塾専任講師 佐藤裕治

1. はじめに

今年度は、現行課程になって2回目の入試が実施された。センター試験や国公立大二次・私立大の実際の入試問題を例に、今年度の出題傾向と受験生の弱点を分析してみた。

2. センター試験の出題傾向

■ 図表の判読に関する問題が増加

表1に示すように、2007年度センター試験問題の素材は、これまで以上にグラフや地図などの図が多用され、解答形式でもこうした図の判定を含む組合せ解答が過去10年間では最も多かった。地理Bでは、組合せ解答と正誤文判定を合わせると、マーク数の9割近くを占め、それ以外の問題も、図表や文章から該当するものを選ばせる形式をとっており、単純な地名や語句を選択させるものは皆無であった。細かな知識ではなく、地理的思考力や地理的技能を試す問題を中心とする出題傾向はいつそう強くなった。

■ 地理A・地理Bの共通問題に変化

2005年度までの旧課程では、大問5問中2問が地理A・地理Bの共通問題で、配点でも100点中40点が共通問題分であったが、昨年度の共通問題は第1問の「地理の基礎的事項に関する問題」のみで、その配点も10点に過ぎなかったが、今年度

は地理Aでは第5問、地理Bでは第6問の「地域調査に関する問題」で、共通部分の配点は18点と昨年度に比べ増加した。昨年度に初めて出題された「地理の基礎的事項に関する問題」は、地理Aのみの出題となった。

■ 地理A・地理Bの平均点の推移

地理Aと地理Bは単位数も受験生の数も異なり、単純に比較はできないが、過去10年間の平均点の変化(図1)をみると、ほぼ同じような傾向で推移するとともに、地理Aと地理Bの平均点の差が縮小していることがわかる。同じ地歴科の世界史、日本史ではA・Bの得点差が依然として大きく、年ごとの平均得点の推移にも関係性はみられない。地理では、A・Bの難易度の調整がかなりうまくいっているとみることができる。地理Aの方が、正誤文判定や組合せ解答の数が少なく、語句の選択肢や該当するものだけを選択する比較的単純な

図1 過去10年間のセンター試験(地理A・地理B)の平均点の変化

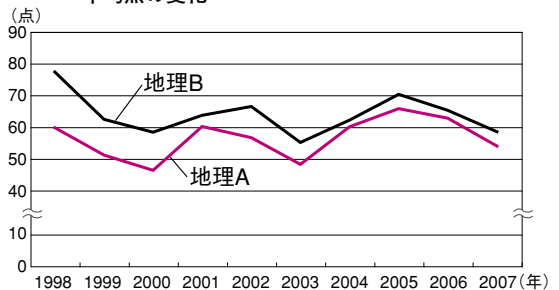


表1 過去10年間のセンター試験(地理B・2007年度地理A)の解答形式と素材形式

	地理B										地理A
	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2007年	2005年	2006年	2007年	2007年
正誤文判定*1	18	18(19)	15(18)	14	8(10)	9	16	19	14	12(13)	7(8)
組合せ解答*1	2	1	6	6(7)	14(15)	13	12	10	13	19	16
図 (内地形図)	12	15	20	16	19	21	18	18	18	22	16
表	7	4	7	5	7	5	(1)	(1)	(1)	(3)	(3)
写真*2	4(4)	3(9)	1(4)	1(1)	2(7)	3(3)	6	3	3	4	11
マーク数	36	36	36	35	35	35	35	35	35	36	36
平均点	77.2	62.3	58.2	63.6	66.3	55.0	62.1	70.2	65.1	58.4	53.9

*1: 括弧内はマーク数を示す。*2: 括弧内は写真の枚数を示す。

形式は、地理Bが4問なのに対し、地理Aは12問もあり、その分だけ判定に要する時間は少ないと思われる。

河合塾が実施している再現答案による設問別正答率(表2)で、とくに低かったのは、いずれも組合せ解答で、3つの組合せのうち、1つは明白だが残り2つの判定で迷う問題が多かったことが、今年度の平均点が低い要因と思われる。

表2 再現答案による設問別正答率(河合塾調べ)(2007年度センター試験地理B)

設問番号	解答番号	正答率	設問番号	解答番号	正答率
第1問	1	91.6	第4問	19	69.0
	2	87.2		20	56.2
	3	43.4		21	79.8
	4	65.9		22	88.5
	5	65.5		23	69.4
	6	86.6		24	65.8
	小計	72.7		小計	70.4
第2問	7	62.6	第5問	25	62.5
	8	59.9		26	80.8
	9	75.8		27	27.4
	10	68.7		28	62.4
	11	69.6		29	77.7
	12	38.2		30	51.4
	小計	61.6		小計	59.2
第3問	13	54.8	第6問	31	38.7
	14	83.9		32	85.0
	15	56.2		33	90.4
	16	92.8		34	42.6
	17	11.7		35	53.1
	18	68.9		36	44.3
	小計	62.1		小計	59.0
		(単位:%)	合計	64.7	

注) サンプル数は2219人(現役生1646人、高校生573人)。サンプルの平均点は、地理B受験生全体の平均点より5.7点高い。大問ごとの小計、合計は得点率を示す。

■ 受験生、とくに現役生の弱点

再現答案による設問別正答率で、11.7%と最も低かったのが例題1で、受験生の半数が東大阪市と鹿児島市を取り違えた。関西圏以外の受験生にとっては、中小企業の多い工業都市としての東大阪市のイメージが薄く、大阪市の中心地機能の一部を分担する都市と考えたのではないと思われる。次いで、低い27.4%の正答率を示したのが例題2で、受験生

例題1 2007年度センター試験地理B第3問

問5 人口規模がほぼ同じ都市であっても、人口構成や産業などの特徴は多様である。次の表1は、人口50万人程度の都市の特徴について示したものであり、カ〜クは、鹿児島市、八王子市、東大阪市のいずれかである。カ〜クと都市名との正しい組合せを、下の①〜⑥のうちから一つ選べ。 **17**

表1

	カ	キ	ク
人口増加率(%)	6.5	1.1	-0.4
20~24歳人口(人)	54,414	42,526	39,600
卸売業年間商品販売額(億円)	6,256	20,359	17,653
製造業従業者数(人)	24,963	14,848	63,198

統計年次は、人口増加率が1995~2000年、20~24歳人口および製造業従業者数が2000年、卸売業年間商品販売額が2002年。国勢調査などにより作成。

	カ	キ	ク
①	鹿児島市	八王子市	東大阪市
②	鹿児島市	東大阪市	八王子市
③	八王子市	鹿児島市	東大阪市
④	八王子市	東大阪市	鹿児島市
⑤	東大阪市	鹿児島市	八王子市
⑥	東大阪市	八王子市	鹿児島市

例題2 2007年度センター試験地理B第5問

問3 教育を受ける機会は、国によって異なる。次の表1は、国民1人当たりGNI(国民総所得)と男女別識字率を国別に示したものであり、K〜Mは、インド、エジプト、ベトナムのいずれかである。K〜Mと国名との正しい組合せを、下の①〜⑥のうちから一つ選べ。 **27**

表1

	1人当たりGNI (ドル)	識字率(%)	
		男性	女性
K	1,390	67	44
L	540	68	45
M	480	94	87

統計年次は、1人当たりGNIは2003年、男女別識字率はインドは2000年、エジプトは1996年、ベトナムは1999年。「世界国勢図会」により作成。

	K	L	M
①	インド	エジプト	ベトナム
②	インド	ベトナム	エジプト
③	エジプト	インド	ベトナム
④	エジプト	ベトナム	インド
⑤	ベトナム	インド	エジプト
⑥	ベトナム	エジプト	インド

の4割以上がインドとベトナムを取り違えた。最近、インドの経済成長や理数系の教育が進んでいるといった話題がテレビなどでも取り上げられることが多いことから、インドの識字率が高いと考えたと思われ、インド国内の地域間、階層間の格差についての認識が低いためと思われる。帝国書院『新詳地理B』p.174では、こうした識字率を含めたインドの格差問題が詳しく解説されている。

一方、現役生と高卒生の得点差が大きかったのが例題3で、それぞれ高卒生に比べ現役生の正答率が11ポイント以上も低かった。両問とも得点上位者と中・下位者との差はそれほど大きくないことから、具体的な地域が出題されると、どうしても現役生の地誌的な知識量不足が現れると考えられる。両問とも、正解の文の誤りは基本的知識で判定できるにもかかわらず、具体的な地域についての詳しい情報が示されると判断できなくなるのではないと思われる。

■地理的技能（スキル）に関する問題で差がつく

グラフや統計地図などの読み取りなど、いわゆる地理的技能（スキル）に関する問題は、センター試験の頻出形式で、今年度の問題でも、総マーク数36中22は統計表、グラフ、統計地図、地形図の判読に関するものであった。再現答案で上位者と下位者の正答率に大きな差がみられたのもこうした図表の判読に関するものであった。例題4では、下位者の多くが、⑥を選択しており、河川の流量の季節変化と降水量の季節変化の違いに気づいていないためと思われる。教科書『新詳地理B』では、グラフや統計地図を多用するとともに、各図に読図のポイントが示されているものが多く、これらを活用することは、図表の判読を中心とするセン

例題3 2007年度 センター試験 地理B 第2問

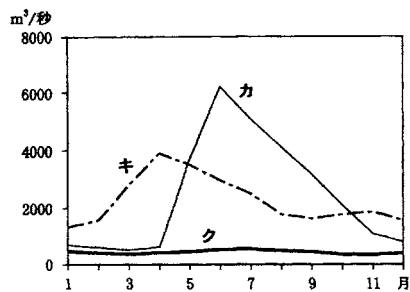
問3 アメリカ合衆国における工業地域の特徴について説明した文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① サンノゼを中心とする工業地域は、半導体や集積回路を生産する企業が多数立地しており、シリコンバレーとよばれている。
- ② シアトルを中心とする工業地域では、豊かな森林資源をいかした製紙・パルプ工業や、第二次世界大戦後に発達した航空機産業が盛んである。
- ③ ピッツバーグを中心とする工業地域では、移民労働力を利用した毛織物工業が古くから盛んであり、労働集約的な生産が行われている。
- ④ ヒューストンを中心とする工業地域では、付近で産出される豊富な石油や天然ガスを背景に、石油化学コンビナートが立地している。

例題4 2007年度 センター試験 地理B 第1問

問3 河川の流量の変化は、流域の気候の影響を受ける。次の図2中のカ～クは、図1中のL～Nのいずれかの地点における月平均流量を示したものである。カ～クとL～Nとの正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

3



統計年次は1971～2000年。一部欠測値を含む。
GRDCの資料により作成。

図2

	①	②	③	④	⑤	⑥
カ	L	L	M	M	N	N
キ	M	N	L	N	L	M
ク	N	M	N	L	M	L

ター試験対策には有効であろう。

3. 二次・私大の出題傾向

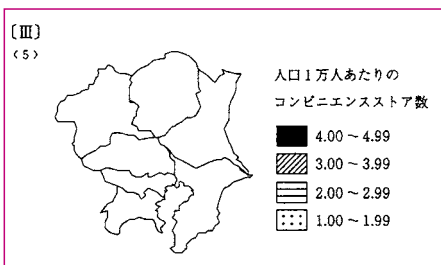
■二次・私大でも多用される統計地図

地理的技能に関する問題は、国公立大二次・私大でも多くみられている。とくに階級区分図や図形表現図などの統計地図は、パソコンで容易に作成できることから多用されているが、統計地図の表現法そのものに関する出題もみられる。

例題 5 は統計地図に関する問題で、問26の階級区分図に関する問題は2001年度のセンター試験地理B（追試）第5問問5と同趣旨の問題である。センター試験が、「階級区分図は、単位となる領域の面積に大小の差がある場合、面積が増加するとそれにつれて増加する性質のある指標に用いるのは不適当とされている」として、人口を示した図を選択させており、問題文から解答を誘導しているのに対して**例題 5** では、階級区分図が相対分布図であり、絶対値を示すには不適当であることを知識として知っていることを前提とした問題となっている。絶対値を示した「不適当な」階級区分図は、新聞などでは多用されているので、『新詳地理B』p.250の「主題図の見方と作り方」できちんとした知識を身につけさせたい。

例題 6 のように、解答用紙に示された地図図に実際に階級区分図を作成させる問題も出題されている。

例題 6 の解答欄



例題 5 慶應義塾大学（経済学部）

Ⅲ 次のうち(ⅰ)は地図の表現方法に関する問題、(ⅱ)は地形図の読図に関する問題である。これらについて、以下の問25～問33に答えなさい。解答は、指示に従って、マークシート上の所定の欄に記入しなさい。

(ⅰ)

地図は、さまざまな情報を伝達する手段として発達してきたが、文章や表などだけでは理解しにくい諸現象の地理的分布をとらえるときには特に有効である。

地図には、主題や目的によって多様な表現方法がある。その中で、統計資料の地理的分布を表す地図には、数値をそのまま表現する絶対分布図と、相対値を表現する相対分布図とがある。絶対分布図としては、円などの大きさで数値を表した(ア)、点の数で数値を表した(イ)、同じ数値の点を結んで表現する(ウ)などがある。また相対分布図の代表的なものに、階級区分図(コプロレスマップ)がある。

問26 下線(ⅱ)に関連して、国や地域別に表現する場合に、階級区分図が最も適さないものを以下の中から1つ選び、解答欄〔27〕にその番号をマークしなさい。

1. 1年間の1人あたりのエネルギー消費量
2. 全発電量に占める火力発電の割合
3. 5年間の人口増加率
4. 10年間に減少した森林の面積
5. 1万km²あたりに生息する植物の種類

例題 6 広島修道大学（前期A日程 商学部）

問4 下線④について、次の表のデータをもとに、関東地方の人口1万人あたりのコンビニエンスストア数の階級区分図を、記述解答用紙の(5)に、凡例に従って作成せよ。また、表と作成した図からわかることとして適切なものを、表につづく記述の中から二つ選び、その番号をマーク解答用紙の指定された欄にマークせよ。解答の順序は問わない。
(解答箇所は、[35]、[36])

関東地方における都道府県別コンビニエンスストア数

都道府県	人口(万人)	コンビニエンスストア数
茨城県	299	1,089
栃木県	200	712
群馬県	202	613
埼玉県	694	2,053
千葉県	593	1,766
東京都	1,206	5,074
神奈川県	849	2,749

<表と作成した図からわかること>

- (1) 関東地方の都道府県でコンビニエンスストア数が最も多いのは東京都である。
- (2) 関東地方の都道府県でコンビニエンスストア数が最も少ないのは群馬県である。
- (3) 人口1万人あたりのコンビニエンスストア数は、関東地方で茨城県が最も多い。
- (4) 関東地方の北部3県では、人口1万人あたりのコンビニエンスストア数が3以上であり、埼玉県のそれよりも多い。
- (5) 人口1万人あたりのコンビニエンスストア数が1未満の都道府県は、関東地方には存在しない。
- (6) 東京都を除く埼玉県以南の県では、人口1万人あたりのコンビニエンスストア数が3未満である。
- (7) 人口1万人あたりのコンビニエンスストア数は千葉県より栃木県の方が多い。

■サッカーW杯に因む問題

オリンピックやワールドカップなどの国際イベントは、地理という教科への関心を高めるきっかけになるのではという思いは、入試問題の作成者にも共通するようで、入試問題にこうした国際イベントに因む問題は少なくない。2006年のサッカー・ワールドカップ・ドイツ大会に関しては、参加国に関する問題が多くみられた(表3)。本大会に出場した国は、世界各地の主要国が多いことから、各国の統計資料や説明文などから国を判定させる問題などにはかっような素材となる。**例題7**は、決勝トーナメントに進出した8か国に関するものであるが、大会中にも話題になったヨーロッパの国の代表選手と移民の問題なども取り込んだ意欲的な問題である。他にもグループリーグの組合せ表を扱った問題(札幌大学)では、A~Hの4か国からなる8つのグループごとの共通点など判断させるなど、さまざまな工夫がみられる。

例題7 國學院大学(A日程)

II この問題は、解答欄の [21] ~ [37] に解答すること。

2006年のサッカー・ワールドカップについて述べた次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(25点)

2006年のワールドカップでは、日本は予選リーグで敗退したが、数多くのヨーロッパ諸国が①決勝トーナメントに進出し、かつ上位を占めたことが注目された。決勝トーナメントに進出した16チームのうち、②10チームがヨーロッパ勢であった。③ベスト8に残ったアルゼンチン、イタリア、イングランド、ウクライナ、ドイツ、ブラジル、フランス、ポルトガルのうち、6チームをヨーロッパ勢が占めた。そしてベスト4はすべてヨーロッパ勢となってしまった。準決勝では④ドイツとイタリアが対戦し、またポルトガルとフランスが対戦した。決勝戦に進んだ⑤イタリアとフランスの試合は、⑥ジダンの頭突き事件で、後味の悪いものを残したが、イタリアの優勝で幕を閉じた。

予選リーグ、決勝トーナメントあわせて64の試合が、ドイツの12の都市で行われたが、そのうち、⑦開幕戦はミュンヘンで、決勝戦はベルリンで、また三位決定戦はシュツットガルトで行われた。

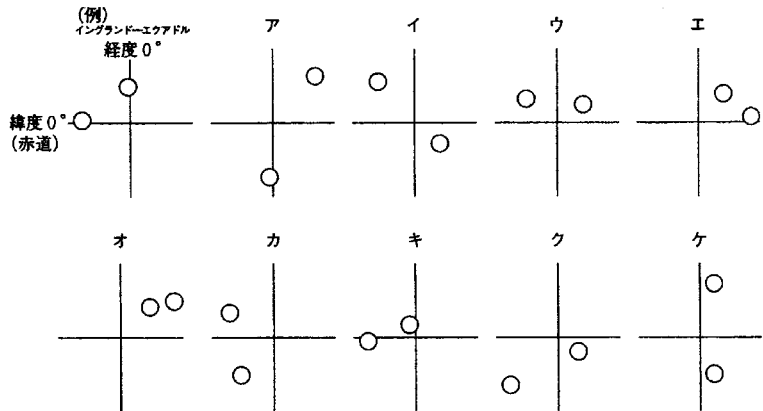
問1 文章中の下線部①に関して、決勝トーナメント1回戦の8つの組み合わせのうち、次の [21] ~ [23] の3つの組み合わせについて、それぞれの国の相対的な位置関係として正しいものを、「イングランド対エクアドル」の例を参考にして、次の図ア~ケの中からそれぞれ1つずつ選び、解答欄 [21] ~ [23] に順にマークしなさい。ただし縦軸は経度0°、横軸は緯度0°(赤道)を示す。またそれぞれの図は世界全国図上での位置関係を示すものではない。

例 イングランド対エクアドル

[21] スイス対ウクライナ

[22] ブラジル対ガーナ

[23] アルゼンチン対メキシコ



問6 文章中の下線部⑥に関して、ジダンの頭突き理由とフランスにおける移民問題とのかわりを指摘する説があった。フランスにおける移民問題に関する次の文ア~エの中から、正しいものを1つ選び、解答欄 [34] にマークしなさい。なお正しいものがない場合には、解答欄のオにマークしなさい。

ア 移民の大半はサハラ砂漠以南のアフリカからの移民である。

イ イスラム国のなかではトルコからの移民が最も多い。

ウ アルジェリアはかつてフランスの植民地であった関係でフランスへの移民が多い。

エ モロッコは旧イタリア領であるが、フランスに近いのでフランスへの移民が多い。

表3 2006年サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会に因む問題

大学	設問の内容
長崎大学	出場国中の24か国に関する統計表（面積・気候区・人口・1人当たりGNI・主な輸出品・最大輸入相手国・主な宗教）から、国名、地図中の位置を判定する。出場国から1か国選んで民族問題、民族紛争、分離独立の例を述べる。
札幌大学 （文化学部）	グループリーグ組合せ表をもとに、各グループの4か国の特徴（西半球の国が2か国以上、南半球の国が2か国以上、人口の合計が最大、面積の合計が最大、etc.）から、グループを判定する。
國學院大学 （A日程）	決勝トーナメントに残った国に関する、位置・言語・国境・移民問題などについて述べた文の正誤判定など。 例題7
愛知大学 （前期）	出場国中の3か国について説明した文章から、該当する国名、主要輸出品、地図上の位置などを判定する。
広島修道大学 （前期C日程）	試合の衛星生中継にからめ、時差を判定する。準優勝国フランスの移民選手にからめ、移民や外国人労働者に関する文章の正誤を判定する。

■インターネットに関する問題

地理で扱うテーマとして、国境を越え移動する人や物だけでなく、情報も重要となっており、入試問題でも情報化社会に関する出題が増える傾向にある。インターネットに関しては、センター試験では2000年度地理B（本試）でインターネット接続時期を示した世界地図に関する出題がみられたが、これは国家群などを問う地図の読み取り問題であった。2001年度には慶應義塾大学（商）で「情報化社会進展の影の部分としての通信ネットワーク関連の社会問題」について、一橋大学では「インターネットと壁の落書きや電柱のビラとの比較」や「サーバースペースの将来の変容」といった小論文の問題で扱われるようなテーマが出題されたが、2007年度の問題をみると（表4）、次のようなテーマに収束してきていると思われる。

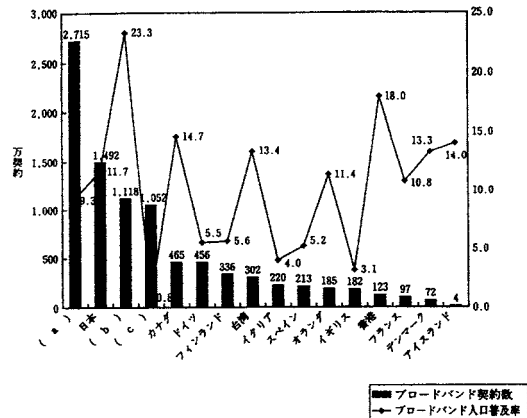
- ①インターネット利用上の留意点。
- ②インターネット普及が社会や産業に与える影響。
- ③統計を用いた地域格差に関する問題（例題8）。

このようなテーマに関しては、帝国書院『新詳地理資料COMPLETE』p.160が統計資料なども用いて簡潔に解説している。

例題8 中央大学（商学部）

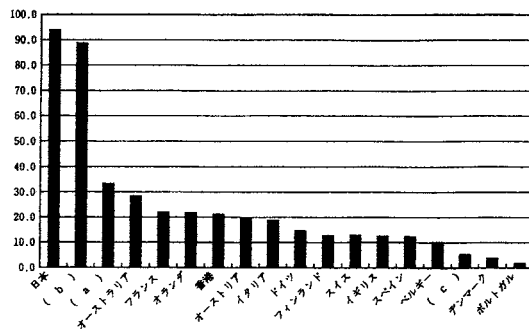
III 次の通信にかんする文を読み、以下の問に答えなさい。（35点）

図2 ブロードバンド契約数及び人口普及率の国際比較（2003年）



（出所）『平成17年度通信白書』より。

図3 携帯電話のインターネット接続率（2004年9月末現在）



（出所）図2に同じ。

問1 図2および図3の(a)から(c)に当てはまる国名を記入しなさい。

表4 インターネットに関する問題

大学	設問の内容
慶應義塾大学 (経済学部)	福沢諭吉の『民情一新』を引用し、インターネットが普及してもビジネスの世界では直接面談することも重要である理由やインターネットの普及が何故、新たな「民情一新」を引き起こすかを説明する。
駒澤大学 (文・法学部S方式)	地域調査でインターネットを利用する場合に留意すべきことを、選択肢の文章から選ぶ。
中央大学 (商学部)	地域別ブロードバンド利用者数推移、国別ブロードバンド契約数・人口普及率、国別携帯電話のインターネット接続率のグラフをもとに、国名や高度のIT化から取り残された地域を判定する。例題8
法政大学 (前期)	インターネットの特徴、普及などに関する文章の空欄に当てはまる語句を選ぶ。インターネットホスト(ドメイン)数の推移を示す表から国を判定する。

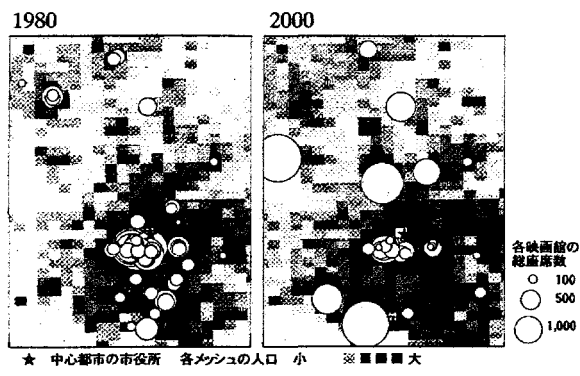
4. 論述問題の形式とテーマ

表5・表6に示した2007年度の国公立大二次試験の論述問題の設問内容をみると、単純な語句や事象の説明を求める問題は少なく、要因や理由を説明させたり、問題点を指摘させるものが多いことがわかる。また、例題9のように年代の異なる統計資料などを示して、その変化の内容や背景を説明させる問題は、新旧地形図の比較問題も含め頻出している。

論述問題1題当たりの字数は50~100字程度の短いものが中心だが、筑波大学、首都大学東京などは300字に及ぶような問題も出題されている。教科書の1行が30字前後あるので、教科書の文章を参考に、普段から50字、100字、300字程度でどの程度のことが述べられるかを意識させることも効果的である。

例題9 名古屋大学

問3 次の図は、1980年頃と2000年頃の、日本のある大都市とその近郊における映画館の立地と、国勢調査メッシュ(1km)統計による相対的な人口分布を示したものである。この20年間に映画館の主な立地にどのような変化が起こったか、また、その変化は映画館周辺地域の商業やサービス業の状況とどのように関わるか、図を参考にしながら述べなさい。



資料：映画館名簿と国勢調査により作成。

表5 公立大二次試験の論述問題の分量とテーマ (2007年度)

大学	論述問題数	総字数	1題当たりの平均字数	テーマ(設問内容)
高崎経済大学	7	350字前後	50字前後	■ 鑽井の意味。■ さんご礁の形成要因。■ アイスランドで火山が生じる理由。■ 「持続可能な発展」についての説明。■ WTOが設立された目的。■ 「グローバリゼーション」の具体的な内容の説明。■ グローバリゼーションが進行することにより、「労働」の側面から先進国、発展途上国それぞれに生じる問題。
首都大学東京 (文系)	9	900字前後	100字前後 (300字1題)	■ 土地利用図に示された地域(合衆国カンザス州)の農業の特徴。■ 合衆国カンザス州付近での環境問題とCRP(農地保留事業)契約地の関係。■ 中国で将来急速な高齢化が進行すると予測される理由。■ 日本などで人口の高齢化を促進させた原因。■ 日本の65歳以上人口率の分布の特徴とその原因。■ 稚内、パリと比較したウランバートルの雨温図の特徴とその地理的条件。■ シンペリア高気圧が発達する原因と日本への影響。
首都大学東京 (理系)	16	1000字前後	60字前後 (300字1題)	■ アバジーンとダンケルクの1人当たりGDP比率が高いそれぞれの理由。■ ロンドンとパリの1人当たりGDP比率が高い共通の理由。■ スペイン南部とハンガリーの1人当たりGDP比率が低いそれぞれの理由。■ ヨーロッパの豊かさの南北格差、東西格差、中心・周辺格差の状況と、それから派生する地域問題を解決するために実施されている施策の説明。■ 地形図判読(神津島)-山頂の景観、山頂と山腹の形成時期の違い、自然災害の起きる自然条件と社会条件。■ 性比の高い国と低い国の特徴とその背景。■ 人口の自然増加と社会増加の傾向に基づいて県を三類型に区分、各類型の人口増加の特徴とその原因。■ アメリカ人の多い都道府県とブラジル人の多い都道府県の分布と背景。

※字数が指定されていない場合は、解答欄の大きさからおおよその字数を推測。

表6 国立大二次試験の論述問題の分量とテーマ (2007年度)

大学	論述問題数	総字数	1題当たりの平均字数	テーマ (設問内容)
北海道大学	11	700字前後	70字前後 (2~4行)	■針葉樹林の面積が増加する理由。■チューネンの「孤立国」で林業地帯が都市に近い位置にある理由。■ドイツの林地村と周辺の土地利用の特徴。■南アジアの季節風の特徴。■アメリカ合衆国のIT企業がインドにソフトウェア関係の仕事を生産する利点。■メトロポリスとメガロポリスの説明。■インナーシティ問題の説明。■日本のある都市の人口ピラミッドの変化の特徴と都市機能の関係。■アマゾン川流域の森林破壊の原因となる農牧業と鉱工業の説明。■アタカマ砂漠の形成と寒流の関係。
筑波大学 (地球学類)	2	600字	300字	■新旧地形図の比較 (地形変化と自然災害・人工改変)。■写真判読 (アモイとシンガポールの旧市街地商店街で景観的特徴が共通する自然的条件と社会的条件)。
筑波大学 (地球学類以外)	4	1600字	400字	■新旧地形図の比較 (地形変化と自然災害・人工改変)。■サヘル地域の植生地帯北縁の緯度の変化とその自然的、人為的要因。■地中海式農業の分布と特色。■写真判読 (タイとカナダの高床式建築と自然環境、生活様式との関係)。
東京大学	17	870字	50字 (30~90字)	■氷期と現在とで海岸線の位置関係が変化した理由。■スカンジナビア半島西岸で冬季も海水が凍結しない理由。■北欧の湿地や湖の水質変化、生態系破壊を引き起こす環境問題。■化石燃料に比べたバイオマス利用発電の利点。■デンマークとノルウェーの発電構成の違いを生む自然環境の特徴。■アイスランドの地熱利用を可能にする自然環境の特徴。■国別1人当たりの食料供給量統計で水産物を判断した理由。■中国の米と小麦の生産の地域的差異。■インドにおける牛糞の利用方法。■地域内での窒素循環図の判読—人間から田・畑に向かう窒素の内容。■1935年と1990年の家畜に関する窒素出入りの変化の内容。■窒素流入量増加に伴い湾内で生じる問題。■卸売小売比と都市人口の関係。■人口規模が同じでありながら小売業販売額が異なる理由。■人口や1人当たりの小売業販売額が同程度でありながら卸売小売比が異なる理由。■ミシガン州とワシントン州の輸送用機械器具の違い。■ケンタッキー州周辺での日本企業の自動車工業立地の特徴。
東京学芸大学	9	650字前後	70字前後 (25~150字)	■衛星写真使用 (アラル海縮小の理由)。■アラル海周辺地域の環境や社会・経済に関わる問題。■衛星写真から身近な道具を使って面積を計測する方法。■流量の季節変化からユーフラテス川を判定した理由。■ヒマラヤ山脈にある海生生物化石を含む地層から山脈の形成過程を説明。■人口転換における死亡率低下の理由。■日本の人口ピラミッドが変化した理由。■テキサスの工業の特徴と変化。■新旧地形図の比較 (土地利用の変化)。
一橋大学	8	1150字	150字 (75~250字)	■日本・NIEsと中国・ASEAN諸国間の貿易の1990年と2003年の変化の特徴。■中国・ASEAN諸国から米国・EU諸国への輸出の1990年と2003年の変化の特徴。■日本・NIEs、中国・ASEAN諸国、米国・EU諸国の3地域間の貿易が1990年から2003年の間に変化した理由。■ベトナムの红河デルタとメコンデルタのコメ増産の要因の違い。■国際河川の開発や環境変化が引き起こす問題。■EPA調印後の日本企業によるメキシコへの投資の特徴とその理由。■NAFTAがメキシコ経済に与えた影響。■EPAの締結に伴う日本側の痛み。
新潟大学	9	750~950字	80~100字	■モンスーンの説明。■インドシナ半島のデルタにおける稲作の特徴。■ASEAN結成の政治的理由。■ASEAN5か国の独立以降の経済活動や工業の発展の説明。■アンカレッジ空港の乗り継ぎ旅行者が1990年頃から急減した理由。■国際航空貨物輸送の拠点空港としてアンカレッジが優れている点。■イギリスのニュータウンに比べ日本のニュータウンが長距離・長時間を強いられる理由。■首都圏全体と比較した郊外住宅地の人口ピラミッドの特徴とその形成理由。■1974年頃に整備された日本の郊外住宅地が現在直面しつつある困難な問題。
福井大学	9	1020字	115字 (60~240字)	■旧図式地形図 (大和盆地) 説明—城下町の判定理由、条里制集落の判定理由、農業的土地利用とため池の目的。■条里制とタウンシップ制をもとにした日本とアメリカ合衆国の農業の基本的な性格とその差異。■排他的経済水域の性質。■日本が北方領土を固有の領土と主張する理由。■東シナ海および南シナ海で生じている領土をめぐる問題。
名古屋大学	10	1000字前後	100字前後	■航空写真使用—ダム建設の結果海岸に面した集落に発生する問題。■マングローブ林の分布の特徴。■マングローブ林の伐採の理由と影響。■小麦、とうもろこしと比較したコメの生産と流通の特色。■中国からの旅行者が増加した理由。■観光動向の経年変化グラフから読み、日本の観光旅行の特徴・変化とその要因。■日本の大都市とその近郊の映画館の立地と人口分布図 (メッシュマップ) から読み映画館立地の変化と、その周辺地域の商業やサービス業の状況との関係。例題9 ■ イングス川流域で灌漑に伴って発生した問題。■アメリカ合衆国の人口上位3都市の都心部に共通する道路形態を含む景観。■近代大都市の長所と欠陥。
京都大学	12	470字	40字	■ロシア国土の行政上の構成。■亜寒帯冬季少雨気候の特徴。■ロシア極東の木材輸出港の立地要因。■東北地方の人口の変化とそれによって生じた農業経営上の問題。■家畜の畜舎周辺で生じる環境問題。■日本のみかん生産が直面する問題。■日本の自動車工業の立地の特徴。■インドネシアにおける日本向け魚介類生産の特徴と問題点。■中国の産業開発の地域的特徴とその問題点。■男性に比して女性の就職先となる産業分野の先進国と発展途上国の差異。■出生率の急激な低下が一国の経済に与える影響。■1970~2000年の間のアメリカ合衆国の女性の労働と出産の関係の変化。
大阪大学	5	700字	140字	■日本の年齢別労働力率グラフで男女のパターンの違いが生じた背景。■大都市圏で女性の労働力率のM字型パターンの谷が深く、通勤時間が長くなる傾向の説明。■近年の結婚年齢の上昇と40歳代前半までの女性の有配偶率の低下が女性の年齢別労働力率の変化に与えた影響。■国際河川の説明。■内陸水路が発達するための自然的・社会経済的条件。
和歌山大学	13	1200字前後	100字前後	■新旧地形図比較—針葉樹林と広葉樹林の分布とその変化、海岸線の状態の変化、交通路線網の発達過程、市街地の発達過程、産業の現況と課題の現地調査内容。■グリーンツーリズムやエコツーリズムの特徴。■リゾート法による開発によってもたらされた問題。■日本でヨーロッパのような長期滞在型の余暇活動が普及しない理由。■日本を訪れる外国人の数と日本人の海外旅行者数とのアンバランスが生じた理由。■電子工業の立地要因。■アメリカ合衆国における先端技術産業の立地とその要因。■ヨーロッパ北西部の家畜と作物を組み合わせたさまざまなタイプの農業の説明。■シュバルツバルトで酸性雨の被害が大きくなる理由。
長崎大学	1	50字	50字	■2006年サッカー・ワールドカップ・ドイツ大会出場国の中で一つを取り上げ、民族問題、民族紛争、分離独立の例を述べる。

*字数が指定されていない場合は、解答欄の大きさからおおよその字数を推測。